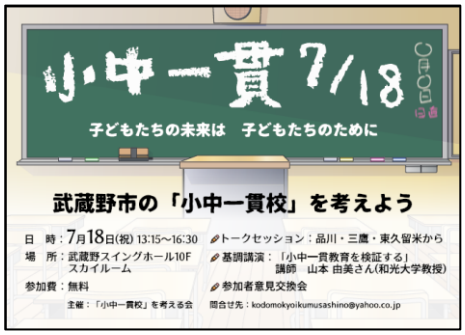
武蔵野市の「小中一貫校」を考える会

ニュース　No.1

2016 年 9 月 4 日発行

「小中一貫校」を考える会
＜連絡先＞
kodomokyoikumusashino
@yahoo.co.jp



7/18、武蔵野スイングホールで開催！ 80 名以上が参加しました。

武蔵野市で「小中一貫校(義務教育学校)」?!

～急浮上の「小中一貫教育」問題～

武蔵野市はこれから迎える校舎の建替え時期にあわせて、新しい学校の形態を検討しています。

現時点で市が提案しているのは施設一体型小中一貫校で、学年区分を「6･3 制」から「4･3･2 制」としています。これにより、中一ギャップ、不登校、いじめの問題を解消できると謳っています。

武蔵野市教育委員会が開催した「むさしの教育シンポジウム」や「未来の学校を考える市民意見交換会」では、「子どもの現状の問題点が見えてこない」、「小中一貫教育を4･3･2制で進める理由は」、「公共施設総合管理計画との関連はないのか」など、市民から意見が出されていました。

7 月 18 日、市民の立場から開催した「武蔵野市の『小中一貫校』を考えよう～子どもたちの未来は子どもたちのために～」（「小中一貫校」を考える会主催）は、保護者･市民･教育関係者など 80 名以上参加。

初めに主催者から、武蔵野市教育委員会が提起している「小中一貫教育」についての経過と、この問題について市民の視点からも考えていきたいことからこの会を企画したこと、研究者や他の区市での経験などの話を聞き、肯定的な面･否定的な面を含め、多面的な意見交換を行いたいことなど、問題提起を行いました。トークセッションでは、品川区と三鷹市の状況が話されました。

基調講演の山本由美氏（和光大学）は「小中一貫教育を検証する」をテーマに、武蔵野市で起きている問題の分析や課題、各地で進められている小中一貫校の問題点について話されました。また、朝日新聞社のアンケート結果では「小中一貫校の導入理由は『統廃合が 1 位』」。発達心理学の立場から子どもを対象に行った「小中一貫校と普通の小･中学校を比較した大規模アンケート調査結果」（山本氏も参加）では、普通の小･中学校の方が学校適応感や精神的健康、コンピテンスなど多くの指標にポジティブな結果が出ている等。また、国立教育政策研究所が 2014 年に発表した「『中一ギャップ』の真実」では、中一ギャップについて科学的根拠がないこと、子どもの発達にとって小中一貫教育は教育的効果が検証されていないことなど、驚く話がされました。最後に、山本氏は「地域が子どもを守る」、子どもの安定した感情の成長･発達に「原風景」が持つ意味として、小学校が在ることが大事と話されました。

参加者意見交流では、武蔵野市の現状、疑問点や問題点、また参加者の教育関係者から小中一貫校の実態が話され、保護者からは「（市教委の）進め方に問題があると思っている。この問題を広めていかないといけない」という意見が出されました。

子どもたちにとって大事なことは何か？

これからもご一緒に武蔵野市小中一貫教育の是非を考えていきましょう。

＊当日資料は「小中一貫校」を考える会 HP に掲載　ttp://school634.jimdo.com/

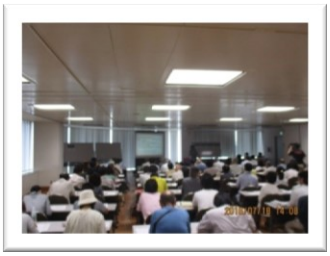
「小中一貫校」を考える会:
この会は、市民参加で武蔵野市の「小中一貫校」の是非を考える会で、個人及び団体で運営しています。（事務局:都教組合北多摩支部武蔵野地区協･武蔵野の教育を考える会）

7/18 参加者アンケートから

公立学校での「小中一貫校」の実施は、文科省や都教委、市教委が目的を求めて進めているもので、保護者や子ども達が要望しているとは考えられない。市民、教職員、保護者の合意で行うべき。

OECD 諸国と比べても、教育予算の少なさ、一学級の人数の多さを考えると、施設一体型の小中一貫校を導入するにあたっては小・中をきちんと校舎で分けること、統廃合・小中一貫に伴う教職員負担の軽減（人的支援）、統廃合した跡地を市民のために活用し、その方向を決めるに際し、地域住民を会のメンバーに加え、十分意見を聞くことなど、具体的に「これだけは守ろう」という方針も必要。

やはり子どものことを一番に考えて出された事ではなく、経費削減なんだなと思ったら、とても残念である。小学校に中学校をつけて一貫型という発言が出たが、そのようなお金を使うなら、待機児対策のためにお金を使うべきではないか。一貫にするメリットがなにもみえない。



小中一貫校に全て反対ではないのだが、市のやり方に大きく疑問を感じる。山本先生の話で、親がよりそい、一緒にのりこえないと、子ども達に負担が大きすぎると感じた。市がやろうとしていることは小中連携で充分だと思う。

＜「小中一貫校」を考える会・申し合わせ事項＞

✧ 現在の武蔵野市教育委員会から示されている「小中一貫校」には多くの疑問があります。
　武蔵野市小中連携教育推進委員会報告書は、武蔵野市の子どもの現状分析（図表等）が表面的で、子どもの状況に対して、何をなすことによってどのように変えるかという道筋が示されていません。子どもの現状をとらえ、その成長・発達に必要な条件を整えることが目的とされているものではなく、学校統廃合を前提とするものではないかという疑問もぬぐいきれません。

✧ 今、求められることは「小中一貫校」を作ることではなく、一人ひとりの子どもの成長を保障する教育をすすめることです。
　小中学校の連携教育は、現在も行われており、成果も語られています。現場の子どもや教職員の実態に即した研究・研修を行い、教育実践の自由を広げていくことが大事です。

✧ **そのためには、教職員・保護者・市民・行政機関が、より良い武蔵野の教育を生み出すための知恵を出し合っていくことが必要です。**

私たちはこの問題について、「子どもたちの未来は子どもたちのために」あることを主軸に、市民参加でより豊かな教育を創造することを一致点として運動の輪を拡げていきます。
どなたでも参加できます。　ご一緒考えていきませんか。

＜コラム＞　京都市の小中一貫校を見てきました

8月中旬、京都方面に行く用事があり、足を伸ばして、小中一貫校を見学してきました。

京都市は「全ての小・中学校で小中一貫教育を推進」しているそうです。京都市教育委員会でいただいたリーフレット「子どもたちの９年間の学びと育ちをつなぐ　京都市の小中一貫教育（平成 28 年４月）」では、「子どもたちに『確かな学力』『豊かな心』『健やかな体』を育み，一人ひとりの可能性を最大限に伸ばすためには，急速な社会の変化や子どもたちの心身の発達状況の変化に，教育内容や方法を的確に対応させながら，教育活動を進めることが必要です。こうした観点から，京都市では小学校と中学校区の学び・育ちを，義務教育9年間の連続性のもとでとらえ直し，中学校区ごとの状況に応じた小中一貫教育を平成23年度からすべての中学校区で展開しています。」とありました。

京都市教育委員会は、義務教育学校は今の所まだ考えていないようです。

施設一体型一貫校（平成 23 年度開校）
京都開睛館（京都市立開睛小学校・開睛中学校）

京都市立上京中学校
（京極小学校・新町小学校・西陣中央小学校・幼稚園との小中一貫教育実施）